

# 商 業

## 1 商業科の学習指導の改善

### (1) 学習指導の改善の視点

教科「商業」の学習においては、基礎的・基本的な知識・技術の習得とともに、新しい学習指導要領のねらいである「生きる力」として、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決できる資質や能力の育成を図る必要がある。

このためには、生徒一人一人の個性を尊重し、個別指導やグループ別指導、ティーム・ティーチングなど個に応じた指導を行うとともに、単なる知識の暗記ではなく、思考力、判断力、表現力などを身に付けられるよう、観察・実験、調査・研究、発表・討論など体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れることが大切である。また、生徒が目的意識を持って意欲的に学習活動に取り組むことができるよう、商業に関する職業資格の取得を進めることも重要である。

### (2) 効果的な学習指導

各科目の目標に応じた効果的な学習指導を行うためには、特に、次のような事項に配慮する必要がある。

#### ア 具体的な事例を用いた学習の充実

科目「ビジネス基礎」においては、生産・流通・消費という経済の仕組みの中におけるビジネスの諸活動の意義や役割などについて、具体的事項を通して、理解を深めるようにする。

また、科目「商品と流通」においては、科学技術等の発展による経済成長やそれに伴う消費の質の変化が、商品を高度化し複雑化していること、及び生産と消費の間の隔たりを大きくさせていることなど、具体的な事例を通して理解を深めさせ、これらの変化に対応するための創造的な能力を育てるようにする。

#### イ 実践的、体験的な学習の充実

科目「ビジネス基礎」においては、売買に関する基礎的なビジネスゲームを取扱うなどして、売買の仕組みなどについて体験的に理解を深めさせる。

また、科目「総合実践」においては、①流通ビジネスに関する実践、②国際経済に関する実践、③簿記会計に関する実践、④経営情報に関する実践の各分野の特色に応じて、応用的なビジネスゲームなど体験的な実践を取扱い、学んだ知識と技術を総合的に応用できるようにする。

#### ウ 課題解決的な学習の充実

科目「課題研究」においては、生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、①調査、研究、実験、②作品制作、③産業現場等における実習、④職業資格の取得の中から生徒に自ら課題を設定させ、自ら課題を発見し解決する能力を育成するとともに、自発的、創造的な学習に取組ませ、学習の成果を発表し討論する機会を設けるなどして、主体的な学習態度を育てる。

#### エ 情報機器の効果的な活用

情報機器については、経営情報分野に関する科目や科目「商業技術」の学習のみならず、教科「商業」のすべての科目の学習において、具体的な事例を取り上げ理解を深めさせたり、体験的に学習を進めたりするために、積極的に活用することが必要である。

例えば、科目「ビジネス基礎」、「英語実務」の学習においては、外国人とのコミュニケーションの手段としてインターネットを活用したり、コンピュータの英会話学習ソフトを活用したビジネス英会話の学習などが考えられる。

また、科目「商品と流通」の学習においては、商品のソフト化や情報通信ネットワークを利用した電子商取引などを理解させるために、インターネットを活用することなどが考えられる。

## 2 評価の工夫

### (1) 評価の基本的な考え方

生徒の学習活動を評価するに当たっては、新学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価（いわゆる絶対評価）を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、学習の到達度を適切に評価していくことが必要である。

そこで、次に教科「商業」の目標と平成13年4月の高等学校生徒指導要録の改善等について（通知）で示された評価の観点及び趣旨を示す。

#### 【目標】

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる。

#### 【評価の観点及び趣旨】

＜関心・意欲・態度＞ ビジネスの諸活動に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスに対する望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。

＜思考・判断＞ ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。

＜技能・表現＞ 商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。

＜知識・理解＞ 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。

### (2) 評価の工夫

新学習指導要領の下での評価は、教科「商業」の各科目の目標に応じ、評価方法、評価の場面や時期などについて工夫し、それらの積み重ねによって生徒の成長の状況を総合的に評価することが重要である。

そのため、次のようなことが求められる。

ア 学習や指導の改善に役立たせる観点から、評価は、総括的な評価のみでなく、分析的

な評価、記述的な評価を工夫すること。

イ 評価を行う場面としては、学習後のみならず、学習の前や学習の過程における評価を工夫すること。

ウ 評価の時期としては、学期末や学年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、時間ごとなどにおける評価を工夫すること。

エ 具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポートなどを用い、その選択・組合せを工夫すること。

### (3) 評価規準の作成

各学校においては、各科目の単元または小単元の目標の実現状況を判断するための評価規準を作成し活用することが大切である。

次に、科目「ビジネス基礎」の評価規準の例を示す。

#### 【単元名】 経済生活とビジネス

ア ビジネスの役割

イ ビジネスの発展

ウ ビジネスに対する心構え

#### 【単元の評価規準例】

関心・意欲・態度	・経済生活とビジネスのかかわりに関心をもち、ビジネスの役割や発展及びビジネスに対する心構えについて、自分から進んでまとめたり確認したりしようとする。
思考・判断	・ビジネスの意義、役割及び発展について様々な角度から主体的かつ客観的に考察するとともに、ビジネスの諸問題を見つけようとする。
技能・表現	・ビジネスの諸活動に関する様々な資料を適切に選択して活用し、経済生活とビジネスのかかわりについて客観的に把握し、その過程及び結果を適切に表現する。
知識・理解	・経済生活とビジネスのかかわりに関する基礎的・基本的な知識を理解し、ビジネスに対する望ましい心構えを身に付けることの大切さに気付いている。

### 3 学習指導案の作成

#### (1) 科目「ビジネス基礎」の内容(単元)の学習指導計画(例)

学 習 指 導 計 画			
学 校 名	北海道〇〇高等学校 第〇学年〇組	担 当	教諭 〇 〇 〇 〇
科 目 名	ビジネス基礎		
内容(単元)	(5) 外国人とのコミュニケーション	予定時数	20時間/105時間 (3単位)
指 導 項 目	ア コミュニケーションの方法 イ コミュニケーションの心構え ウ 日常の会話		
目 標	国内においてビジネスで外国人に接する場合の挨拶などによく用いられる簡単な英会話に慣れ親しませ、コミュニケーションに必要な基礎的な能力と態度を育成すること。		
指 導 項 目 の ね ら い	ア コミュニケーションの方法 国際化の進展に伴い、ビジネスにおいて外国人とのコミュニケーションの機会が増加していることについて理解させるとともに、聞くこと、話すことなど、態度を交えた基本的なコミュニケーションの方法を習得させる。 イ コミュニケーションの心構え 外国人に対して、相手の立場を尊重し積極的に交流するなど、ビジネスにおいて外国人と円滑にコミュニケーションを行うための心構えについて理解させる。 ウ 日常の会話 国内において外国人と接する機会を取り上げ、日常よく用いられる身近な会話に慣れ親しませるとともに、我が国の日常生活の過ごし方を外国人に正しく紹介するための、基礎的な知識を習得させる。		
内 容 (単元) の 評 価	<関心・意欲・態度> 外国人とのコミュニケーションに関心をもち、国内においてビジネスで外国人に接する場合のコミュニケーションの方法や心構え及び日常の会話について自分から進んでまとめたり確認したりしようとする。 <思考・判断> コミュニケーションの方法や心構えについて様々な角度から主体的かつ客観的に考察するとともに、日常の会話を考え外国人とのコミュニケーションの諸問題を見つけようとする。 <技能・表現> 外国人とのコミュニケーションに関する様々な資料を適切に選択して活用し、ビジネスと外国人とのコミュニケーションのかかわりについて客観的に把握し、コミュニケーションの方法について考え適切に表現する。 <知識・理解> 外国人とのコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動に活用することができる。		
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的なフレーズは暗記させると効果的である。</li> <li>・ ALTの活用や地域民間講師による講話を実施する。</li> <li>・ パソコン用の英会話学習ソフトを活用すると効果的である。</li> </ul>		

(2) 指導項目「コミュニケーションの方法」に関する学習指導案（例）

学 習 指 導 案 (単元指導計画案)				
学 校 名	北海道〇〇高等学校 第〇学年〇組	担 当	教諭 〇 〇 〇 〇	
科 目 名	ビジネス基礎			
内容(単元)	(5) 外国人とのコミュニケーション	予定時数 20時間/105時間 (3単位)		
指導項目	ア コミュニケーションの方法	予定時間 8時間/20時間		
指導項目 の ね ら い	国際化の進展に伴い、ビジネスにおいて外国人とのコミュニケーションの機会が増加していることについて理解させるとともに、聞くこと、話すことなど、態度を交えた基本的なコミュニケーションの方法を習得させる。			
時 間	教師の教授活動	生徒の学習活動	留意事項	
0.5	1 国際化の進展に伴い、ビジネスにおいて外国人とのコミュニケーションの機会が増加していることについて理解させる。	(1) 外国人が来日する目的、日本のビジネスに果たす役割について調べる。	海外における日本人の活動にも触れる。	
0.5	(1) 国際化の進展が、日本のビジネス活動に与えた影響を説明する。	(2) 外国人とのコミュニケーションの経験を発表しあい、日本人同士のコミュニケーションとの違いをノートにまとめる。	外国の文化や習慣について指導する。	
0.5	(2) 外国人のコミュニケーションの特徴を説明する。	(3) 外国人とのコミュニケーションにおいて、意志が正しく伝わらない原因についての考えを発表する。	コミュニケーションの弊害となる原因をまとめ、相手を理解する大切さを指導する。	
1.5	(3) コミュニケーションの方法や心構えについて説明する。	(4) ビジネスでよく使われる言葉を用いて、受付や店内等での応対の方法について、ロールプレイングをする。	ビジネスマナーについて指導する。	
2	(4) 日本のビジネス活動でのコミュニケーションの特徴を説明する。	(1) 動作や表情に気を付けて、挨拶や自己紹介など英語での会話練習をする。	ALTの活用やチーム・ティーチングによる指導など、生徒が積極的に会話に参加できる授業作りに心掛ける。	
2	2 聞くこと、話すことなど、態度を交えた基本的なコミュニケーションの方法を習得させる。	(2) 受付、店頭、電話などの応対を想定し、英語を使った会話のロールプレイングをする。		
3	(1) 英語を使った、挨拶や日常会話の方法を説明する。			
3	(2) 外国人とのビジネス活動における基本的なコミュニケーションの方法を説明する。			
評 価 の 観 点 と 内 容	<関心・意欲・態度> 外国人とのコミュニケーションに関心を持ち、コミュニケーションの方法について自分から進んでまとめたり確認したりしようとする。	<思考・判断> 外国人とのコミュニケーションの方法について、様々な角度から主体的かつ客観的に考察しようとする。	<技能・表現> 外国人とのコミュニケーションに関する様々な資料を適切に選択して活用し、コミュニケーションの方法について適切に表現する。	<知識・理解> 外国人とのコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、活用することができる。

## 4 質疑応答

問1 簿記会計分野の学校設定科目「簿記演習」は、どのような内容ですか。

簿記会計分野のねらいは、会計の国際化やコンピュータ化に対応するため、ビジネスの諸活動を計数的に表現する簿記会計に関する基礎的な知識と技術を身に付けさせるとともに、会計の国際化による会計制度の変更や会計のコンピュータ化の現状について理解させることである。科目構成は、企業において日常発生する取引を合理的、能率的に記帳できる能力と態度を育てることを主眼とした科目「簿記」、株式会社の会計及び財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させることを主眼とした科目「会計」、原価計算及び簿記に関する基本事項の習得及び原価情報を活用する能力と態度を育てることを主眼とした科目「原価計算」、企業のグループ化、国際化、情報化等の企業環境の変化に伴う会計の諸制度の変更・拡充に対応することを主眼とした科目「会計実務」の4つである。

学校設定科目が地域、学校及び生徒の実態、学校の特色等に応じ、特色ある教育課程を編成するために設けることができるとされているので、「簿記演習」では、簿記や税法に関する知識と技術を習得させ、合理的な会計処理を行うとともに、税を正しく計算し申告する能力と態度を育てることを目標としており、科目の内容は、(1) 株式会社における記帳 (2) コンピュータを利用した会計処理 (3) 税務会計の基礎 (4) 税の申告と納付 (5) 総合記帳演習で構成されている。

問2 社会の変化に対応した科目「総合実践」の指導方法について、どのような工夫をしたらよいか。

科目「総合実践」のねらいは、商業の各分野で学んだ知識と技術を実践的、体験的な活動を通して、各分野がねらいとしているマーケティング能力、国際交流能力、会計活用能力、情報活用能力という総合的な知識と技術にするとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うことのできる能力と態度を育てることである。

指導に当たっては、この科目が教科の総合的な科目としての性格をもつことから、各分野の特色に応じ社会の変化に対応した体験的な実践を取扱い、学んだ知識と技術を総合的に応用できるようにするとともに、ビジネスに関する興味・関心を高めるためビジネスゲームを取扱うことや、情報機器を積極的に活用しプレゼンテーションを行うなど、生徒の情報発信能力を高めることが大切であり、各分野の実践において次のように工夫する。流通ビジネスに関する実践では、「商品と流通」に関連させてサービス、情報を付加した商品開発、「マーケティング」と関連させて消費者ニーズに関する市場調査、商品計画、販売促進など。国際経済に関する実践では、「経済活動と法」及び「国際ビジネス」に関連させて国内外への証券投資、個人輸入など。簿記会計に関する実践では、「会計実務」に関連させて企業の財務諸表などを資料として、経営分析を行い報告書の作成など。経営情報に関する実践では、「ビジネス情報」及び「プログラミング」に関連させて、ソフトウェアを利用して経営活動のシステム設計など。